



中大伝統のビジネスコンテスト野島記念

実行委メンバーによる 泣き笑いの活動日誌

「素晴らしい団体だ ちょっぴり感動」

代表者 野島記念BusinessAward2018 広報担当 飯村海斗(経2)

中央大学からビジネス界で活躍する人材が増えてほしいという中大OB・野島廣司氏の篤志のもと毎年開催される野島記念BusinessAward。予選は11月25日、決勝は12月16日。学内最大規模のビジネスコンテストの成功を目指し、創意と工夫を続けている実行委メンバーの活動日誌には泣き笑いがあった。



部室で話し合うメンバー。ホワイトボードはアイデア続出で、書き切れないほどだ

学生のうちからビジネスの世界へ。野島記念BusinessAwardの参加・出場は自由だ。学部・学年を問わず、出場人数も友人同士、ゼミ、一人でもOK。予選・決勝準備のほか、初めての参加者を対象とした「起業って何をやるんだろう?」「どんなことが必要なの?」といった疑問を解決するためのイベントも開催。メンバーは考えられることを実行に移している。

日々の会議

5月19日

「広報担当として動いていく際に、課題となったのがイラストレーターの仕事の難しさでした。まだまだパソコンにも慣れていないのに、初めて使ったときは訳が分からず、泣きそうになったのを覚えています。見たことない記号が多すぎる泣」(1年)

「ようやく始まった2018年新生アワード! 広く感じた会室も1年生たちが入ってぎゅうぎゅう詰めになりました。試験前に大変なイベントが重なることが多い変な団体ですが、楽しみながら頑張っている」(2年)

5月25日

「この団体の素敵なところは、1年生の意見も積極的に取り入れてくれるところです。体験で会議を見学に行った際に、僕が言った意見がそのまま採用へとつながったときは驚きました。僕は6限(午後6時15分~7時45分)に授業があるので、いつも途中参加です。議論が進んでいる中、ついていくのはいつも大変です」(1年)

「合宿の日程を決める時期になってきました。去年は、花火ができ

なかったのが悔やまれたから、今年はみんなでやりたいな。団体の活動も本格化して、今、広報担当は、大学の(ポータルサイト)C-plusに乗せる告知文や参加者募集のポスターを作成しています」(2年)

7月3日

「ビジネスコンテストの予選で敗退したチームに対して与えられるアイデア賞についての話し合いが中心の会議となりました。『ビジネスコンテストの満足度を高めたい』『参加したことを誇りに思ってもらえるような舞台にしたい』など、我々メンバーの思いから熱い議論を交わしました」(2年)

7月10日

「今日の会議はいつもにも増して議論が活発になっている気がしました。難しい話題であればあるほ

ど、多くの質問、意見が飛び出して、素晴らしい団体だとちょっぴり感動。全員が大会や企画を大成功させたいという思いを抱いているからこそこんなに活発な議論になるのだと思います」(1年)

「やっと、野島記念Business Awardを学校みんなに知ってもらうために、授業内宣伝に行きます。1年生が初めてする仕事、たくさん緊張をしていたのか、たくさんミスがありました。見つけるのが面白い。一つずつ仕事をして、一つずつ覚えてほしい。そして、私を乗り越えてほしい」(2年)

7月17日

「高校生の時にも広報物作成に

は携わっていましたが、この団体に入ってから、初めて本格的な素材を使わせてもらいながらポスターを作成しました。操作方法が難しく工夫の仕方です。試行錯誤しましたが、先輩方や同期にアドバイスをもらい、もっともっと成長していきたいです」(1年)

7月24日

「今日の会議は、なんだかそわそわしていました。かくいう私自身もやっぱりそわそわしていました。なぜか。この時期は期末試験が存在するのです。中間試験よりもはるかに重い課題と試験量にほとんどの学生は絶望するあの期末試験です。日誌に書いていいのか迷いましたが、今日はどうか早く会議を

終わらせようと、みんな見たこともないような集中力で臨んでいました。この中の何人が今日寝ずに勉強をするのでしょうか」(2年)

「これで夏休み前の会議は終わりです!ありがとうございました!!

春学期が終了し、実行委員会としての今年の活動が半分終わりました。会議のファシリテーション。代表としての一つの責務です。このやり方でいいのかと、これまでずっと迷いながらやってきました。しかし、最近は僕がつまづいた時に、誰かが意見してくれる機会が増えています。なんとか乗り越えていけそう。いよいよ後半戦。一歩先を見据えて、舵取りをしていく」(2年代表)

名刺交換の勉強会



部室で行った勉強会。名刺交換の際のマナー、スーツの着こなし方などを学びました



夏休み中に企業訪問 (大会審査員招聘)

8月8日=随時

「普通では聞くことができないビジネス知識や考え方を教えて頂きました。一度アワード内で集まって、先輩方からビジネスの礼儀やスーツの着こなし方、さらには名刺の渡し方までたくさんのことを教えて頂きました。一生ものの経験になりました!」(1年)

「私は今まで、ビジネスなどと大きくかかわったこともなく、初めて企業を訪問しました。訪問前は、身だしなみやあいさつの仕方に間違いがあったらどうしようと、とても緊張していましたが、実際に企業にお邪魔すると、おしゃれなオフィスや担当の方が優しくて親しみやすく。私が想像していたものと大きく異なり驚きました」(1年)



部室外観

「今年の夏は、猛暑警報が出るほど暑い! それでも訪問時にはスーツを着込み、ネクタイを締めて行きました。汗びっしょりになりながら電車に乗ったのもいい思い出です」(2年)

「企業訪問で一番衝撃を受けたのは、自由すぎる職場環境でした。オープンスペースにカフェのような音楽が流れ、皆さんラフな格好で働いていました。PC作業をしている

方、他の企業と商談中の方、休憩をとっている方と様々でした。こんなところで働いてみたいなあ」(1年)

「企業訪問は社会の第一線を走る社会人とじかにコミュニケーションが取れるとあって、当団体の花形ともいえる仕事です。

とはいえ、それに至るまでには膨大なメールのやり取り、マナーの勉強など地道な準備をしなければいけないわけで、なかなか一筋



野島記念2018実行委

代 表 / 佐々木達也 (商2)	参 加 者 / 勝山 彩音 (商1)
参加者局長 / 後藤璃里香 (商2)	町田 優輝 (商1)
島本 佳奈 (商2)	松浦 誉 (法1)
審査員局長 / 内田 修平 (商2)	審 査 員 / 三原 将太 (商1)
片野志穂美 (商2)	山本 寛大 (経1)
福井 貫太 (経2)	吉田 知世 (商1)
広報局長 / 原 舞花 (商2)	広 報 / 新井 璃央 (経1)
飯村 海斗 (経2)	菅 晴香 (経1)
山崎 優也 (商2)	高木 耕平 (商1)
	濱本 舜平 (商1)
	藤森 彩華 (商1)

縄ではいきません。

それはちょうど、ランウェイの上で輝くモデルの裏に隠された努力に似ているような気もする」(2年)

「今年の新たな施策は、スーツに限定していた服装をビジカジ(ビジネスカジュアル)の私服に変えることでした。時代と共に変わりつつあるマナーに対応し、その流れを自分たちから発信。社会に新施策を作り出すための試みです。

なんてたいそうな標語を掲げつつも、内心は審査員の反応ばかりを気にしている。

結果、先方からは好評でした。

長年続いてきた慣習に変化を起こすのは、最初の一步こそ重いものではあったが、歩みだしてしまえばどうということはありません。石橋を叩きすぎる自分のマインドを少し変えられた気がしました。

とにかくアクションを起こすこと、常識を疑うこと。これからも忘れずにいたいと思った平成最後の夏になりました」(2年)

プレメンタリング会

「参加者を対象としたプレメンタリング会を開催。セミナーと個別相談会の2部構成とし、セミナーはスタートアップにおけるビジネスの基礎を中心に事業計画書、財務計画書の書き方のレクチャー。個別相談会では事業計画、マーケティング、財務計画などについての相談を個別に受ける準備をした。また、ビジネスに強くなる中大生を育てる足掛かりとなるようにと、スタートアップセミナーも企画した」(2年)

8月18日

「『中大発スタートアップセミナー』が開催されました。実務家の方をお招きしての講演に加え、個別相談会を実施するのは初めての試みです。企画を立て、修正実行する過程はビジネスコンテストにも通じるものがあるように思います。わくわくは始まったばかり!」(2年)

「去年の失敗を踏まえて、今年のプレメンタリング会は改善 成功! わかりにくい講座名の変更から始まり、講師と実行委員で事前に内容をしっかり共有できました。しかし、広報活動に怠りがあり私自身反省が大きかったです。次につなげたい」(2年)

メンバーの奮闘は12月16日の決勝まで続く。

野島記念 Business Award

ビジネススキル講演会

10月3日(水)・10月10日(水)

※両日内容同じ

- 1部 16:30~17:15(プレゼン実演)
- 2部 17:25~18:40(事前計画書講義)
- 交流会 16:40~19:00

場所

多摩キャンパス
5202教室
※途中入退場可能

予選会 11月25日(日)

決勝 12月16日(日)

場所

多摩キャンパス
Cスクエア
中ホール
※途中入退場可能